

つながる、ささえる、680万

# 連合救援ボランティアレポート

第22号  
2011年5月19日

11

## ボランティア第7陣325名が出発

5月18日、救援ボランティア第7陣325名が、第6陣298名と入れ替わりで各拠点に向け出発しました。3月31日の派遣開始以来の人員数は1,869名、延べ活動人員（人数×日数）は、10,872名となっています（5/19時点）。安全・健康に気をつけて、現地でご活躍ください！

### ■地元マスコミも視線■



河北新報・5月19日朝刊で、宮城県での連合ボランティアの取り組みが掲載されました。県下の団体ボランティアとしては最大規模であること、岩手・福島にも同規模のボランティアを送り込んでいることが、関係者のコメントとともに紹介されています（記事は[河北新報ホームページ](#)でもご覧いただけます）。

### 連合、マンパワー活躍 被災地にボランティア派遣



民家の片付けを手伝う連合傘下の労組組合員=4月、気仙沼市

連合が、団体・組織としては最大規模のボランティアを宮城県内の東日本大震災の被災地に派遣している。4月以降、ボランティア活動をした組合員は600人以上。受け入れ窓口の連合宮城は「被災地全体に貢献したい」として、当面、7月まで続ける方針だ。

連合は4月1日からボランティアを県内に派遣。1陣ごとに約100人が参加し、今月18日には第7陣が着任した。被災地で3日間作業し、1日の休暇を挟んで、さらに3日間作業する。

派遣先や作業内容は県災害ボランティアセンターに調整してもらい、気仙沼、石巻両市、亘理町などで一般住宅や側溝の掃除、家財の運び出しを行ってきた。

現地本部責任者を務める連合の須田孝労働条件局長は「働く者全てのために何ができるかが連合の原点。災害時の社会貢献こそが労組の社会的使命だ」と強調する。

同センターによると、県を介してボランティアに参加する団体としては最大規模。1日200人台で推移する県内ボランティアの約5%に当たる。センターは「センター事務局にもボランティアを出してもらい、大変力になる」と感謝する。

石巻市で活動し、17日に離任した東京の製薬会社社員の鈴木真理さん(43)は「被災規模が大きいために細く長く、継続して活動を続けることが大事」と話した。

連合宮城の山崎透会長は「全国の組合員が参加してくれ、連帯を感じる」と支援に感謝する。

連合は岩手、福島両県にも宮城と同規模のボランティアを送り込んでいる。

2011年05月19日木曜日

Copyright © The Kahoku Shimpō